

T1A3

10

Ki44j

中華民國七年七月一日
教育部核定

尋常小學
新體讀本

卷三

第一課



むかふのはうを
ごらんを。
たふハ、れんげさう
のはながさうて
をります。
はたふハ、なのはな
がさいてをります。

てふが、はなのうへふたはふれてをります。
なんとよいけーきでいありませぬか。
こちらのほうを、ごらんをさい。
へうたんを、さげてゆくひとがあります。
ちうばを、もつてゆくひともあります。
あれハ、どこへゆくので、ありますか。
あれハ、はなみにゆくので、ありません。
さくらなのはな、れんげさう

菜 畑

いまをさかりの のふさとふ
手をひきつれて こゝかゝこ
はなみ つみくさ れもゝろや

文題

一、たねいなたをつくりますか。
二、はなふいはなををつくりますか。
三、れんげきり。

第二課

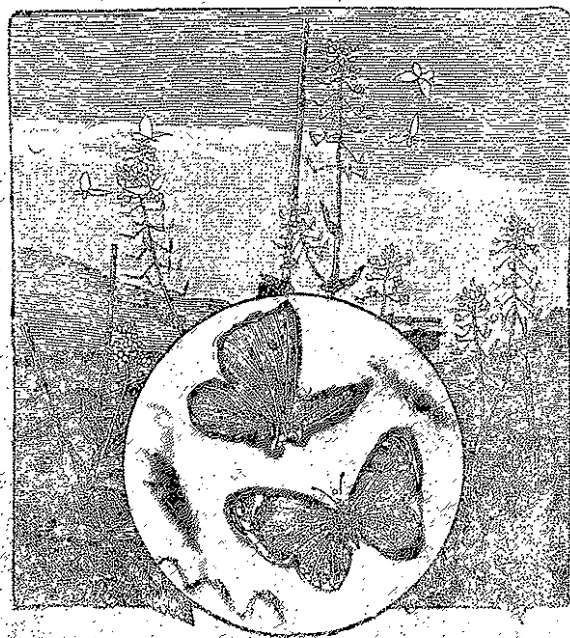
この畑に、いきいろなる花、一めんにはけり。
これハ菜の花なり。

虫 見

花の上ふとぶ虫を
見よ。

寝

この虫ハ、てふなり。
てふハ、四まいのはね
と、二本のひげとあり。
したハ、長くーて、花の
つゆをすふふ
よりー。



はなハ、白きもあり、赤なるもあり、くさ

美もありていと美。

てふいすがた美くーてはるのけき
によくかなうとも、そのはぐめいと
みふくきものなり。
てふい、もと、いかなるすがたのものなりー
や。ーらづてみよ。

てふくーとまれや 菜のはふとまれ
とまる菜のはい こがねの花で

花がてふくーか てふくが花か
かぜふふかれて ひらりやひらり

文題 一、菜の花。二、へうたん。三、ちゅうなん。

第三課

春 三月四月五月を春といふ。

草 春ハ、きこり、あな、かく、草も、木も、美ー
花をひらき、あたらーきめをふいて、の
のけーきいとよろー。



此のころハ人の心も
れのづから うきたつ
故ふのづふ出でて
草をつみめいーよふ
行きて花を見るもの

たにー

あたかなる春の日ふのづをあるき
めいーよをたづねてあそぶハまことふ

たのーきものなり。

文題一いふ。 ニとんほ。 ミいふ。

第四課

サクラハ春ノナカバゴロヨリ花ヤウヤク
開ク。 花ニヒトヘナルモアリ、
ヤヘナルモアリ。
ヒトヘハ早クサキ、ヤヘハオソク
開ク。 イツレモウスアカクシテ

其甚美し。

其春ノ花ハサマぐアレド、其ノ美シキハ
サクラニマサルモノナシタ、花トイヘ
バ、スグニサクラヲ思ヒ出スホドナリ。

文題 一、モ、ノ花。 二、春。 三、花。

第五課

アサヒガノボリマシタ。
タラウハ、ソトニ出デテ、アサヒヲナガメ



テヲリマス。
アサヒノ出ヅル方
ヲ、何トイヒマスカ。
アサヒノ出ヅル方ハ、
東トイヒマス。

マスカ。

西
日ノ入ル方ハ西トイヒマス。

南

北

タラウノ、右ノ手ニアタル方ヲ、何ト

イヒマスカ。 右ノ方ハ、南トイヒマス。

左ノ方ヲ、何トイヒマスカ。

左ノ方ハ、北トイヒマス。

文題

日ハ一ヨリ出テ一ニ入リマス。 東ニムカツテ
ニ多トキハ、右ハ一ニシテ、左ハ一デアリマス。
東西南北ヲ一トイヒマス。
ニサクラ。

第六課

フカキ 山ニ入り、ヒロキ ウミヲワタル

トキハ、キリタチアメアリ

テ、日ノ見エヌコト、

マ、アルベシ。

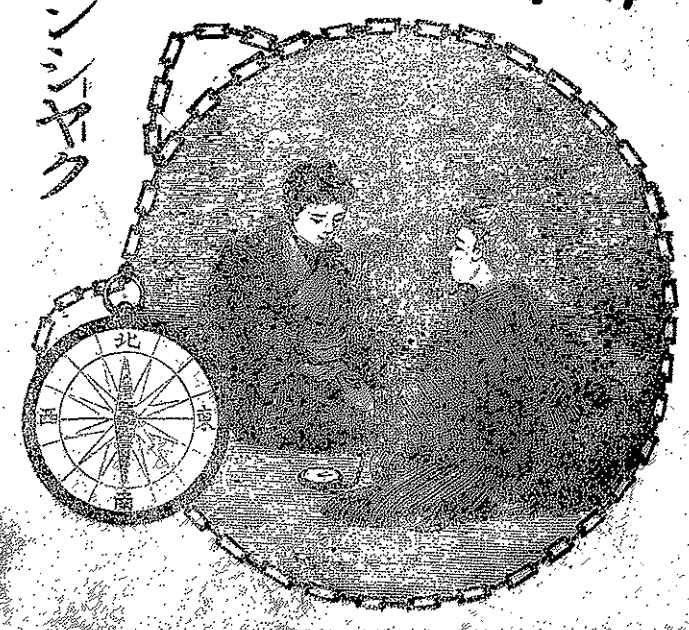
カヤウナルトキハ、イカ

ニシテ方角ヲ知ルカ。

日ノ見エヌトキハ、ジンヤク

トイヘルダウグヲ見テ、方角ヲ知ル。

ジンヤクハ、時計ニニタルモノニテ、



方角
知

時計

針

常向

牛力

馬

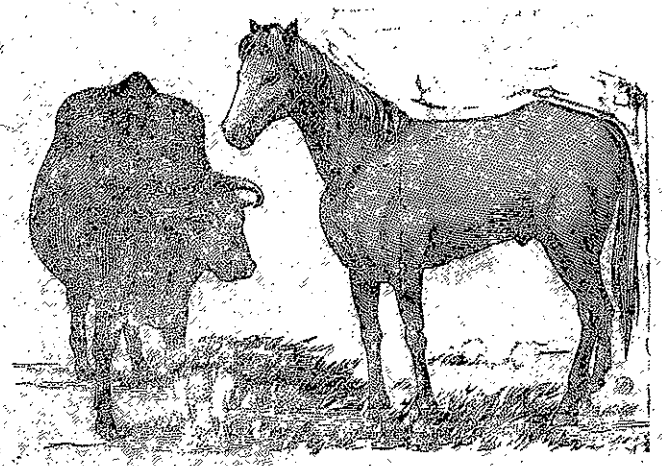
又軍荷用

其ノ中ニジイウニウゴク一本ノ針アリ、
此ノ針ハキメウナルカ子ニテ、其ノ先、
常ニ北ノ方ニ向フ。故ニコレヲ
見レバ、東西南北ハシゼンニ知ラル、ナリ。
文題 一、東西。 二、南北。

第七課

牛ハ、大きなるけものふゝて、かつよく、
よく人になれゝたがふ。

馬も大きなるけものに
ゝて、かつよく、よく人
になれゝたがふ。
牛馬ハ、うまれつゝすなほ
ふゝて、よく人ふなれ
ゝたがふものなれば、これ
を用ひて、荷をたはせ、車をひかゝめ
又、田畑の土をほりたこさゝむ。



馬ハ、かけはいること、すみやかなれば、
人れほくこれふのる。
牛ハ、あゆむこと、なせければ、人これふ
のることまれなり。

文題

一、

二、とうい。

三、かんたんけい。

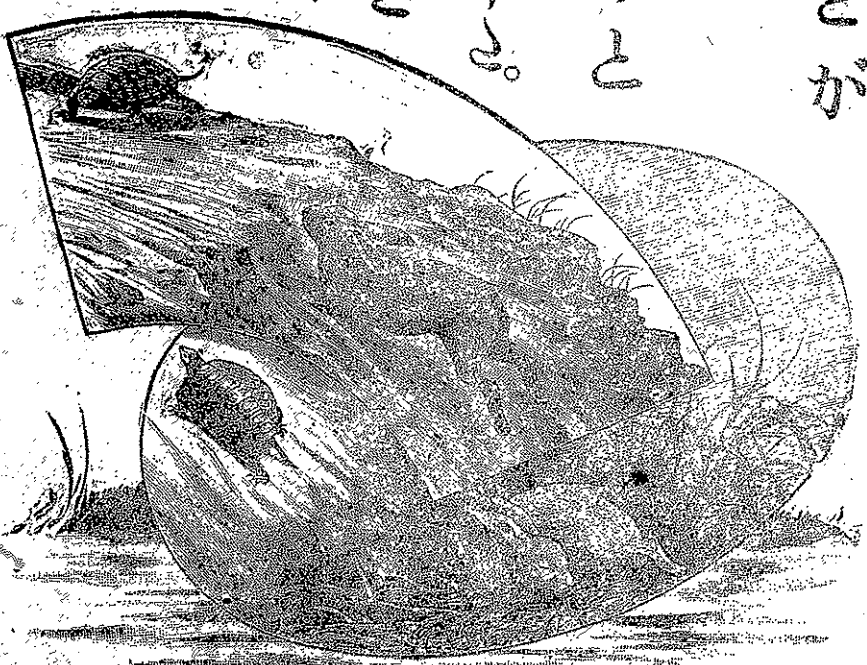
第八課

うーのやうな、あみのおそいもので
も、おこたらずめくときハ、つひみとはい

ところ、おもゆくことが
できます。

むかし、うなぎとじのめと
が、かけくちをしましと。

うさぎハ、あーのはやち
にほこつて、あめの
あゆみのおそきを
あなごり、とちうハ



て、ひとねづりーまー。

やがて、めをさまーてみれば、のめい、はやくさくーとくろふ、めい、うさうさのきこるをうまつてめんとさふはなーがあります。

それゆゑ、さういふことも、めい、をーていなりませぬ。

とぶふいはやれ、うさうさ。

ねふれば、のめふ、おひこされのーこきこども、おここればおくれーひとの、あとふなるおこさるな

文題 一、牛。二、馬。

第九課

コ、ニ、荷車ヲ引イテ坂ヲノボルモノアリ。車ニハ、重キ荷物ヲノセタレ

荷物 坂 引

バ、引キ上グルコト、ヨウイナラズ。

少 此ノ人ハ、カツキ、アセナガルレドモ、少シ

モ手ヲハナツコトナシ。

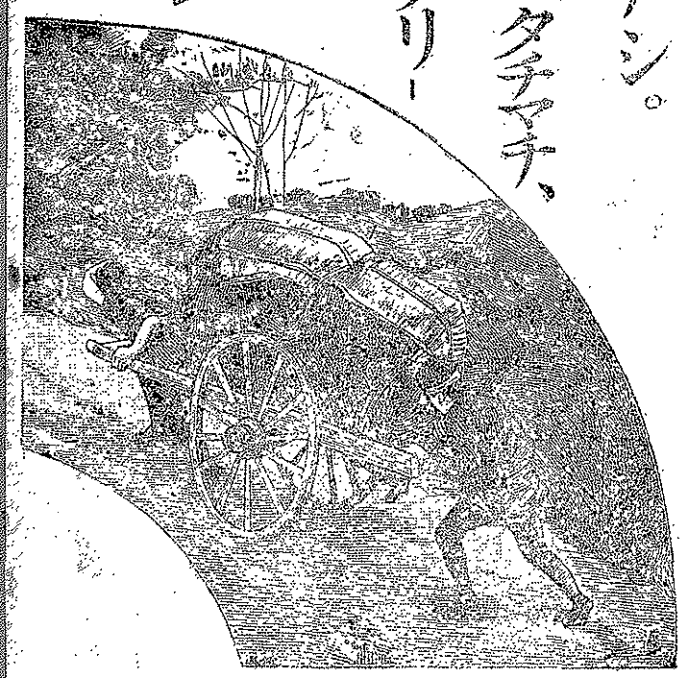
コレハ、モシ、ユダンセバ、タチマテ、

アトモドリシテ、ホチヲリ、

ゾントナルユエナリ。

習 人ノヨミカキヲ習フ

モ、コレニニタリ。



サレバ、ムカシノ人モ、

手習ハ坂ノ車をおすごし、

ゆだんをするにあといふほどぞ。

トイヘリ。

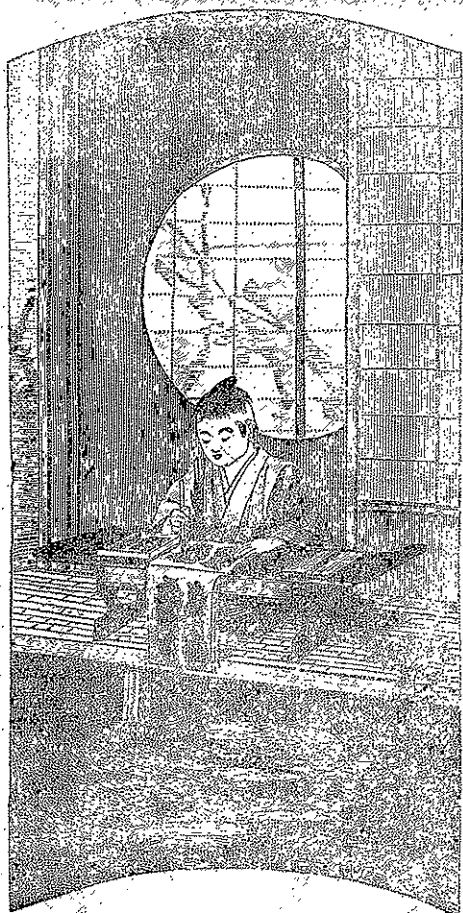
文題 一、ウサギ。二、カメ。

第十課

ムカシ、アラキハクセキ新井白石トイフ人ガアリマシタ。

ハサイノトキ、手習ヲハジメマシタガ、

毎日 毎夜 文字



毎日 毎夜
オホクノ文字
ヲ習ハセラレ
マシタ。

持机

冷水

日クレニナレバ、机ヲエシガハヘ持テ
出シテ、ヤウヤク、其ノ日ノクワゲラ
ヲ、スマセタコトモアリマス。

又、夜ハ冷水ニテ、子ラケヲサマシ、ヤウ

父

ヤク、其ノ夜ノクワゲラヲ、スマセタ
トイフコトデアリマス。
白石ハ、カヤウニハゲンデ、文字ヲ習ヒ
マシタ故、ホドナク、上手ニナツテ、父
ニカハツテ、手がミヲカイタトイフ
コトデアリマス。

文題

一、カシコギコトモ、ヨク、ヨミカキ、習フ。
二、坂、車、引き上、ヨウイ。
三、荷車、荷物、ハコ、トキ、用フル、車。

第十一課

今は五月なり。

母、むすめの、きものを―たてんとて、
たんもの、のすんばふをはのれり。

あのたんもの、い、ものごちなり。

尺
母の持てるもの、さ―い、くちり尺とて、
こんもの、のすんばふを、はのるに用ふる
ものなり。

机こ―のけなごの、すんばふを、はのる
小用ふるもの、さ―は、のね尺といふ。



のね尺とくちり尺
とい、其の長さ
おな―のさず。
されど、すんばふ
の、うしろの、い
いつれも、さ―い

寸分 丈合 草

して、のはることなり。
すべて、尺ハ、一尺をもとどし、これを十
ふ分ちたるを、一寸といひ、一寸を十ふ
分ちたるを、一分といふ。
又、一尺を十合はせたるを、一丈といふ。
まへのゑの下ふゑのけるハ、おね尺の一寸
なり。 汝等、こゝろみふ此の尺ふて、
まへのゑのよじてを、はのりて、見よ。

文題 一、机。 二、新井白石。

第十二課

箭 これハ箭なり。 此の箭ハ、太いふのび
より。 長さ、六尺五寸ほどあるなり。

皮 此の箭の下、の皮ハ
おちより。

箭ハ、いくまいとなく、
皮を、あふれども、



成長
次第

竹
色

作

成長するふーたのひて、次第ふ皮をぬぐ。
竹ハ、まろくーて長く、其のはハ常ふ
みどりにーて、色をあらはず。
みきハ、うつろふーてふーあり、あそく
ーて、たやすくをれず。
人これをを用ひて、さまざまのどうぐを作る。
竹ふて作りたるものに、尺さるかご
す、これひーやくふてたてなごあり。

文題 一尺。ニ、三。

第十三課

谷
高低

泉
流

山ト山トノアヒダヲ谷トイフ。
山ハ高く、谷ハ低シ。
谷ヨリキヨキ水ノワキイヅルアリ。コレ
ヲ泉トイフ。
泉ハ、少シノ水、チヨロくト流レユキ、
アヒアツマリテ、小川トナル。

海 奇

小川モ、次第ニ流レ

ユキ、アヒアツマリテ

大河トナリ、ツヒ

ニ海ニ入ル。

海ハ、ヒロクシテ

フカシ。

汝等ハ、雨フリツボー

キテ、大河ノアフレ

タルヲキ、シコトアラン。

サレド、ナガアメノタメニ、海ノ水ノ

マシタルヲキ、シコトハナカルベシ。

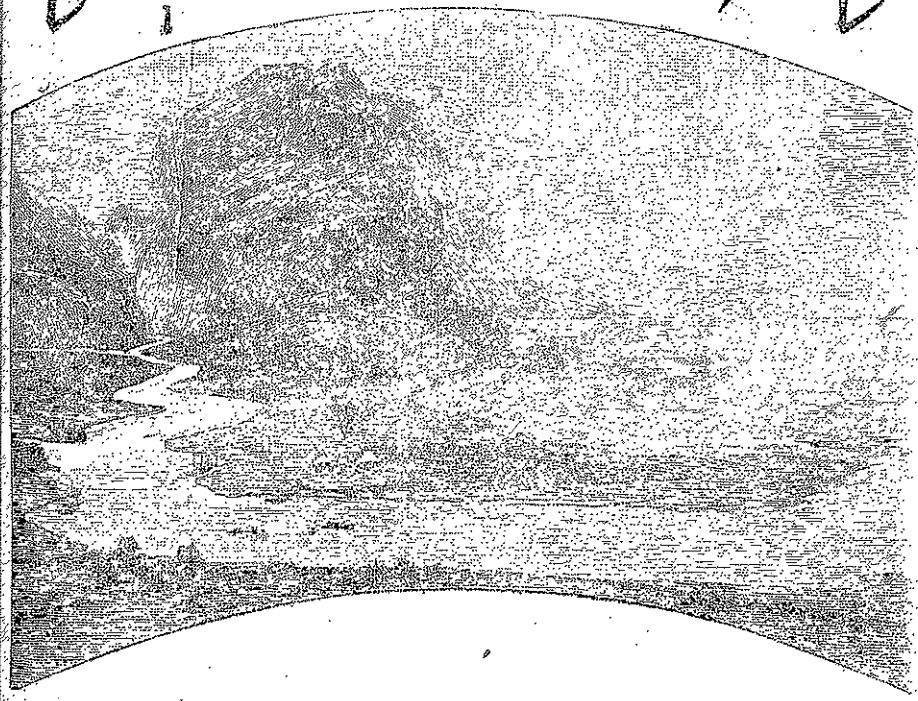
海ノヒロクシテ、大イナルハ、コレヲ

見テモ知ルベシ。

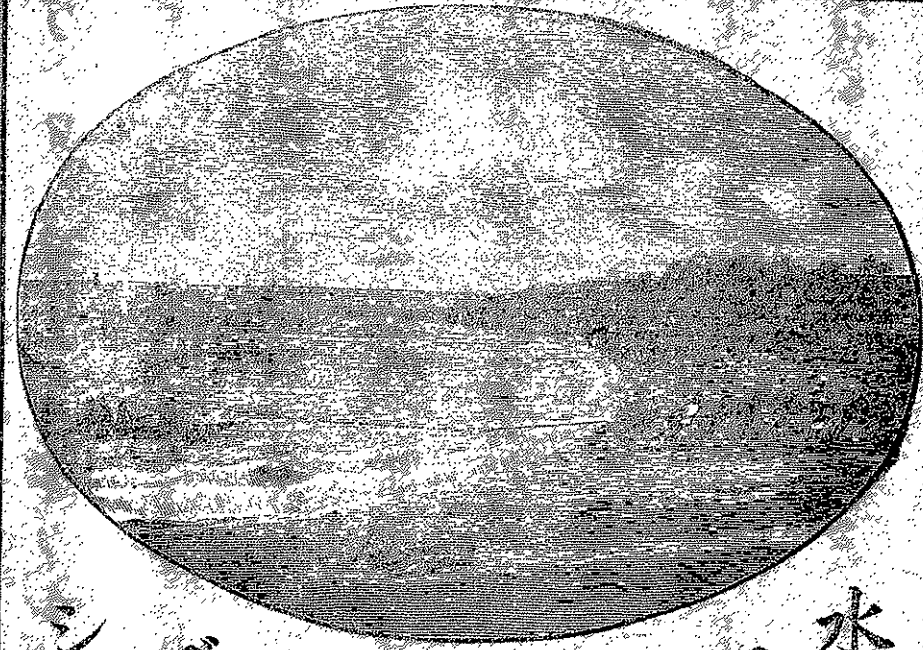
文題一竹。ニ、フデタテ。

第十四課

海ノケシキヲ見ヨ。



沖 舟



水ハ、ヒログトシテ、
アラソラニツラナレリ。
沖ノ方ニホカケブ子
アリ。
舟ハ、ヒラクトシテ、
木ノハノウカベルガ
ゴトク、其ノホハ白ク
シテ、サギノゴトシ。

魚

カナタヨリコギクル舟アリ。
アレハ、レフシガ魚ヲトリテ、カヘリ
キタルトコロナリ。

男

ハマベニハ、アミヲヒケルレフシアリ。
アマタノ男女、コエヲカケ、足ヲソロヘ
テ、アミヲヒケリ。

何

此ノアミハ何トイフアミナリヤ。
コレハ、デビキアミトテ、海ノ中ノ魚ヲ、

あゝいぬのかひぬーハ、これを見て、
おほいにばかり、ぼろをとつて、くらゐぬ
をたゝきまゝにがはてハ、あゝいぬ
までもうしれまゐた。

ひともしあきともちになまぐはれバ、
あやうなるわざはひをうけますゆゑ、

よくきをつけねばなりません。

文題
一、ウシ。
二、デビキア。

第十六課

友にハ善きもあり、惡きもあり。

善き友と交れば、日々善きことを
し、善きことを見習ひて益あり。

惡しき友に交れば、日々ふ惡しきことを
をき、惡しきことを見習ひて損あり。

賢 善き友に、いむつまじく交るべし。 惡き
友は、あつむづなり。 惡き
も、あやまちて、惡き友に交れ
ば、思はざるわざはひをまねくこと
あり。
されば、賢き人、あつむづく、交り
をむすぶことなり。

文題 一犬。 ニヤウニヤウ。

第十七課

夏 六月 七月 八月 ヲ 夏 ト イフ。
晝 夏 ハ、アツク シテ、晝 ナガク 夜
ミジカシ。
初 六月 ハ 夏 ノ 初メ ナレバ、キコウ
雨 サマデ アツカラザレドモ、雨 フリツ、
キテ コ、チサハヤカ ナラヌ 日
オホシ。

田舎ニテハ此ノ頃稲ノ苗ヲ田ニ
ウエツク。コレヲ田ウエトイフ。

見ヨ。今ハ田ウエ

ノサカリナリ。カナタ

コナタニキコユルハ

田ウエウタナリ。

田ウエハノウゲフノ

中ワケテタイセツノ



ワザナレバ雨ニヌレ、土ニマミル、ヲモ
イトハズ、皆田ノ中ニ入りテ、苗ヲサスナリ

文題 一、ヨキ友。二、賢キ人。

第十八課

七月 八月ハ、キコウワケテ暑シ。

晝ハ風ナクシテ、木ノハスラ動カズ、

ヒナタミヅハ、ユノゴトクニナリ、セミ

ハ、サワガシクナキテ、ヒトシホ暑サヲ

朝

涼



マスカト思ハル。

サレド、朝早くオキ

テ見ヨ。

風涼シクシテ、コ、チ

サハヤカニ、朝ガホノ

花、ソユヲオビテ、イト

美シ。

朝ガホニハ、サマク

ノ美シキ花アリ。

人々コレヲメデテ、

或ハカキ子ニウエ、或ハハチニウ。

文題 一、夏。 二、田ウエ。

第十九課

黒雲

夏の暑き日ふハ、黒雲のなつふあらは

る、かと思ふまふ、たちまち、こゝろふ

はひこりて、大つぶの雨をふらすこと

あり。 此の雨を夕立といふ。

戸

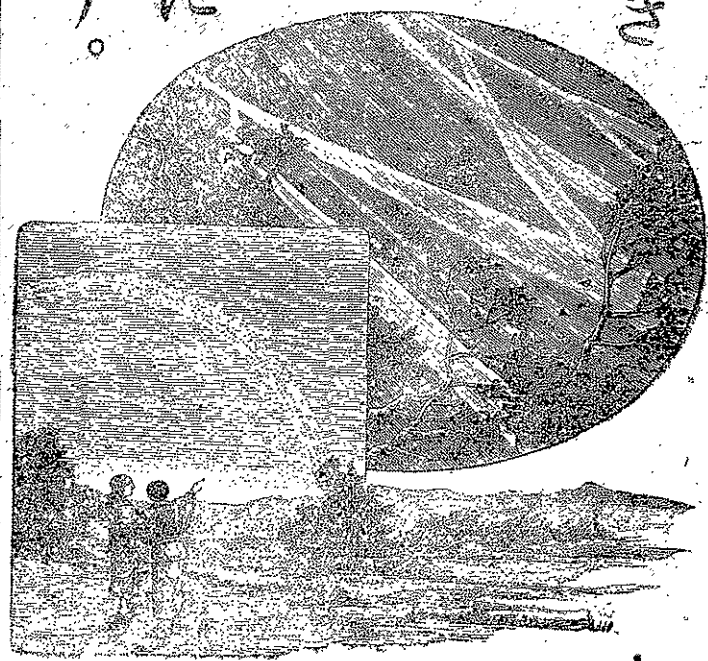
夕立のふるときハ、あみなり、やねの上
ふなりわたり、いなびかり、戸のすきまより
さーこみて、いとすこき
ことあり。

雨 やみ、あみなり

をさまれ バ、弓なり

空

の美ーきもの、空に
あらはるゝ ことあり。



必

これをにドといふ。
にドハ、常ふ日と向ひあひて、あらはるゝ
ものふて、日東ふれば、必西にあらはれ、
日西にあれば、必東ふあらはる。

文題 一、夏の日中。 二、朝のは。

第二十課

此のゑをごろんなさい。
あひるが、池の中ふ泳いで居ります。

居泳池

羽

一羽のめんどりが、二羽のひよこを
ひきつれて、池のふちふきまわした。



あのめんどりハ、
ひよこのおやで
あります。
おやどりハ、たいそう
ひよこのみのうへ
を、たぐひつてゐます。

親

もうひよこの池の中に入らうとすれば、
このことゐいて、これをとめます。

親の子を思ふハ、にはうづべきも、此の
とほりであります。

されバ、皆さんハ、よく親の心を思ひやつて、
常に危いところふ、ちのよらぬやうふ
せねバ、なりませぬ。

文題

一せう。二に。

第二十一課

孝 母ノウシロニ居ルハオ孝
ニシテ父ノカタハラニ
忠 居ルハ忠ニナリ。
才孝ハ毎バン母ノ
肩ヲタ、ケリ。
コレハ母ノカラダヲ
休メントテナラン。



忠三ハ毎バン父ノカタハラニ出デテ、
ウリアゲノカンヂヤウヲ爲セリ。
コレハ父ノテダスケヲ爲サントテナラン。
親ノ肩ヲタ、キ、親ノテダスケヲ爲ス
ハ孝行ノ初メナレバ、怠ラズツトムルヲ
ヨシトス。

文題 一、アヒル。ニ、メンドリ。

第二十二課

小學宗廟義方 卷三 木部 材木

材木

此ノイヘノソトニハ、アマタノ竹ト材木

屋

トアリ。コレハ材木屋ナリ。

丸太
角物

材木ニハ、丸太ト角物トアリ。

枝

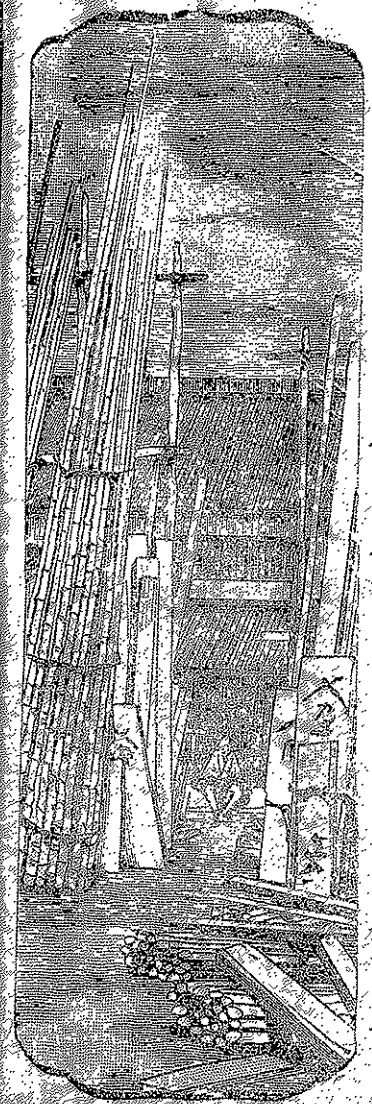
丸太ニハ、木ノ枝ヲキリハラヒタル

マ、ノモノアリ。又皮ヲムキタルモノ

アリ。

角物ニハ

四寸角五



寸角ナドサマヅアリ。

材木ヲウスクヒキワリタルモノヲ板ト

イフ。板ニハ松板杉板ナドアリ。

板
松
杉
家

家ヲタツルニ用フル材木ハ松杉ヒノキ
ナリ。

柱

柱トドダイニハ杉又ハヒノキヲ用ヒ、
ハリニハ松ヲ用フ。

天

ユカハオホク松板ニテハリ、天ジヤウハ

三十五 八ノ六ノ五ノ四ノ三ノ二ノ一ノ

オホク杉板ニテハル。

文題 一巻、二巻

第二十三課

住 人の住む爲ふこゝらふるものを家といひます。

屋根 家ハ木をくみ屋根をふきつづをぬりてこゝらつます。

家のうちふハぬまごきだぬところとま

などをとりだいどころふハ板をはりぬまごきふハふみをあきます。

建方 家ふハさまぐの建方があります。

平屋建 もあれば二階建 もあります。

二階 又土ざうづくりもあればれんぐわづくりもあります。

瓦 屋根のふき方ふも草ぶき板ぶき瓦ぶきなどのふき方があります。

文題 一 家。ニ大エトサクワン。

第二十四課

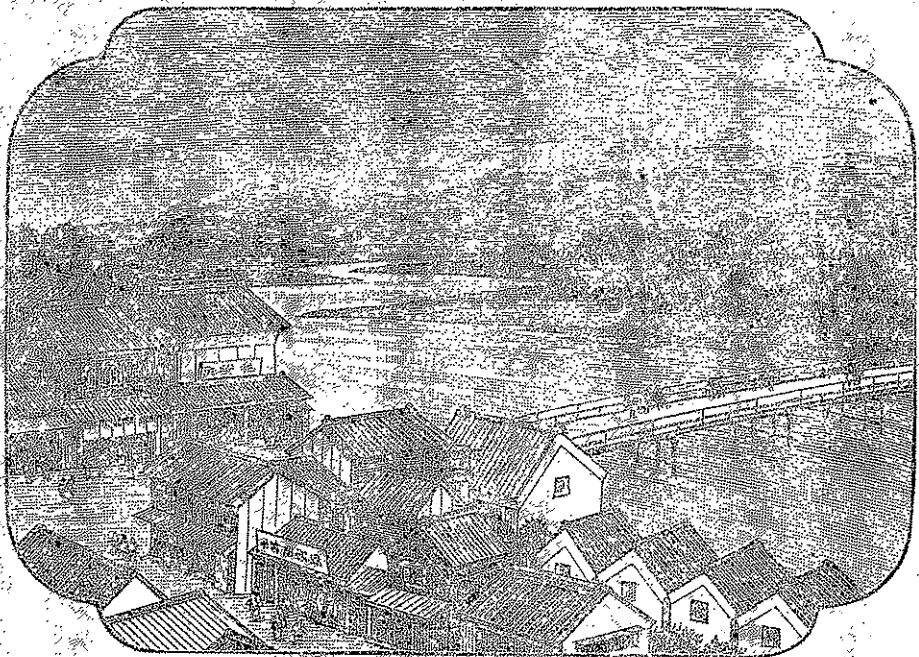
橋 多 村 町

橋のむのふにハ草ぶきの家あり、橋の
こなごふハ、瓦ぶきの家多し。
橋のむかふハ、杉田村ふりて、橋のこなご
ハ小松町なり。
杉田村ハ、ぢめんよろゝくゝて、こくもつ
よくみのる。

商

百姓

店



小松町は、商ハはん
トやうゝて、おまの
なり。
百姓ハ、村ハ住こて、
こくもつ やさいをど
を作り、商人ハ、町ハ
店を出ゝて、さまぐ
の物をうる。

杉田村の百姓ハ小松町小行きて物を
うり、又、物をかふ。

小松町の商人ハ居ながら物をうり、又、
四方よりあはれを爲す。

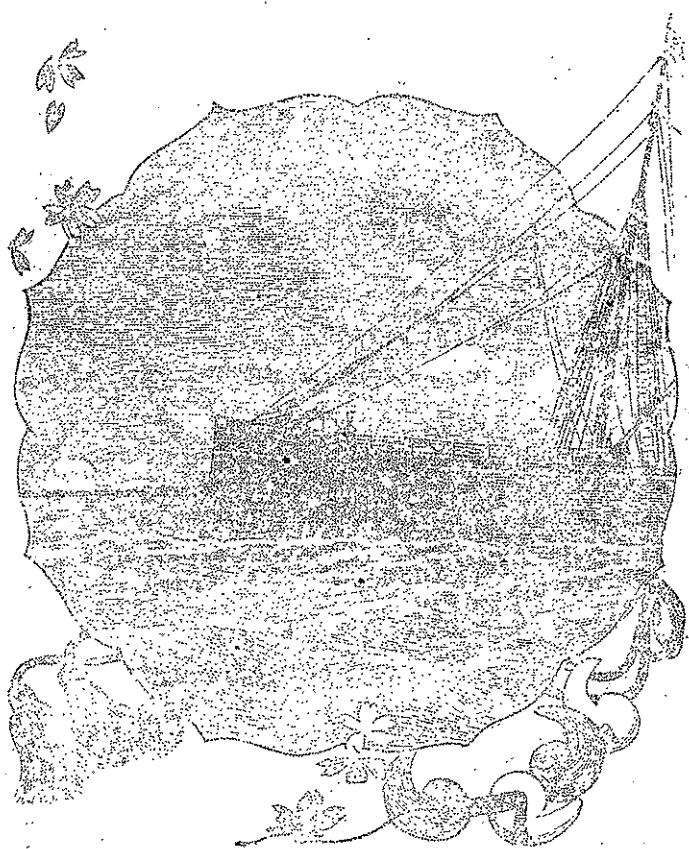
文題 一家のたぐひ。 二、雇のふきり。

第二十五課

我等ノ住メルニツポンニハ杉田村ノ
ゴトキ、村々頗多ク、小松町ノゴトキ、

町々極メテ
多シ。

ニツポンニ住
メルモノハ
ニツポンノ
コトヲ知ラ



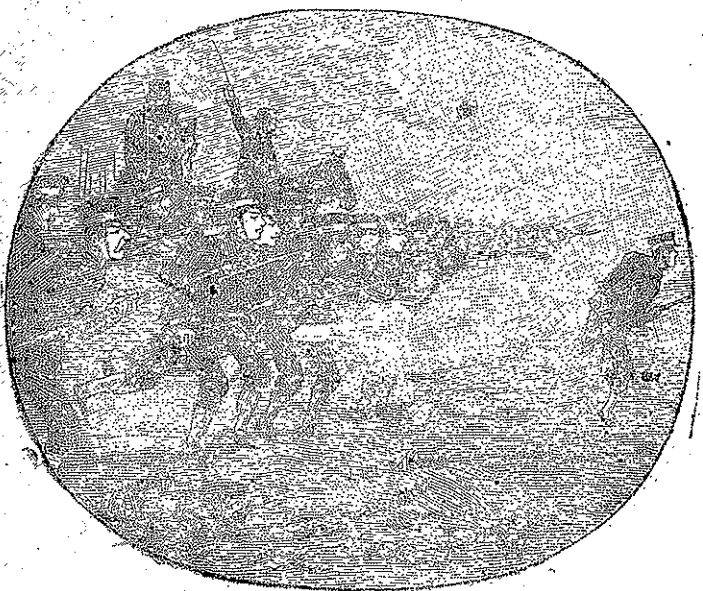
デハカナラマジ。
ニツポントハ日本トカク。 日ノ出ツル

國トイヘルコトナルベシ。
 日ノ出ハ實ニ勢ヨシ。
 サレバ人ノ勢ノ盛リナルヲ日ノ出ノ
 勢トイヘリ。

名
 アハ、日本トハイトメテタキ名ナラズヤ。
 たなびくくもを おーひらき
 のぼるあさひを 名ふもちて
 日本國の いまほひの

かゝやくみよこそ めでたけれ。

文題 二村。三町。



第二十六課

コノエハ、ヘイタイノ
 テウレンヲスルトコロ
 デアリマス。
 ヘイタイハ、テツパウノ
 サキヘケンヲツケテ、

ミガマヘヲシテヲリマス。

ケンハ、キラ／＼トシテ、イナヅマノヤウ
ニカビヤイテヲリマス。

ナント、イサマシイデハアリマセヌカ。
ニツポンニハ、ムカシヨリツヨイヒトガ
オホクアリマシタ。

マタ、オヤニカウヲツクシ、キミニ
チウギヲツクシタヒトモ、タクサン

アリマシタ。

文題

一、日本國。ニ、ヘイタイ。

卷一	明治廿七年八月十二日印	全	卷二	明治廿七年八月十五日發	全
卷三	明治廿七年九月廿五日訂正再版印刷	全	卷四	明治廿七年九月廿八日發	全
卷五	明治廿七年九月廿八日發	全	卷六	明治廿七年九月廿八日發	全
卷七	明治廿七年九月廿八日發	全	卷八	明治廿七年九月廿八日發	全

金港堂書籍株式會社編輯所編輯

東京市日本橋區本町三丁目十七番地

發行兼
印刷者

金港堂書籍株式會社

代表者

右社長

原 亮三郎

東京市下谷區龍泉寺町四百十番地

賣捌所

各府縣特約販賣所

○尋常 新體作文教授書
○小學 新體讀本字解

全四冊 定價金五拾七錢
全一冊 定價金拾貳錢

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 7 2 5 4 1 4 a

福岡教育大学蔵書